

若松賤子伝記

キリスト教の愛と会津の魂たましい

チリメンの布ぬの



かし子は、今までは、その箱はこをそれほどりつぱなものとは思っていませんでした。それは、いつか、友だちのだれかとりかえた箱でした。きれいなチリメンの布がはってありました。

みんな出かけて、だれもいなくなつた家の中で、ひとりぼつんとしていたとき